

全教一斉ひのきしんデー

立教164年5月13日(日)



今こそ世界たすけ
さあ ひのきしん!!

家族そろって参加しよう

各地の会場、集合時間など詳細は『天理時報』
4月1日号、8日号をご覧ください。

実践項目集計 (2月分)

おさづけ＝	5, 724回
にをいがけ＝	90, 027軒
おちばがえり＝	720名

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン
本年の実践項目

論達を實踐し、を、や、の理を戴こう

一、おさづけの取り次ぎ

二、陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ

一、一万人のおちばがえり

旬の動き

個人宅で開催した

「陽気ぐらし講座」の喜び

上下分教会 田中 勇

昨年十一月「決起の集い」で二宮先生は、「陽気ぐらし講座」を個人宅で開催する喜びをお話下さいました。その話を聞いて、私は心に期するものがありました。

かねてから上下町に隣接する甲奴町と総領町で「陽気ぐらし講座」をさせて頂こうと思っていましたが、なかく、実現の運びになっていなかったのです。

両町とも教会はありませんが甲奴町に十人総領町に八人の用木の方が居られます。それらの人々に働きかけて、個人宅をお借りして開催させて頂こうと心を定めました。

まず、開催日を立教一六四年三月十八日(日)と決め、支部担当の人を通して講師の都合を伺ったところ、丁度その日は空いているとのこと、事前に内諾頂きました。

又、両町の用木宅へ何回か足を運ぶ内に、それぞれ個人宅をお借り出来ることになりました。そ

して会場となる家の用木の方が熱心に周辺の人々に呼びかけをして下さり、足の不自由な人のためにと椅子など用意下さるなど心をこめて準備をして下さいました。

開催当日は、晴天と暖かさの御守護を頂き甲奴町は二十名、内未信者八名。総領町は二十九名、内未信者十九名の受講者でした。

境のフスマも取りはずし和気あいあいとした雰囲気の中、講演下さる先生も大変お喜び下さり、勇んでお話し下さいました。明るく分り易いお話し時間超過気味で少しはらく致しましたが、定刻通り、次の会場である豊松村へ無事、先生をお送りさせて頂きました。

先案じが多く遅々として成人の足取りの鈍い私ですが、心を定めてからは、教祖が先廻りしてお働き下さったのだと信じ御礼を申し上げております。

一番うれしかったのは、自宅を提供下さった用木やその地域の用木の方々と感動と喜びを共に出来たことです。

受講された未信者の中には新興宗教を熱心に信仰されている人も居られました。又、もつと話



を聞きたかったとの声もありました。

にいがけにつながる「陽気ぐらし講座」それは個人宅開催にあると思えました。

笠岡大教会創立百十年！今の旬に生きる感激と個人宅でつとめさせて頂いた喜びを胸に勇んでつとめさせて頂いている昨今です。

末筆ながら、お忙しい中お世話取り頂いた支部担当の先生方、ありがとうございました。

心の通ひ路

えんじゅんじきたものだ、あれから28年

稲倉分教会 北川 壮一

おだばに引き寄せて頂き早28年、現在天理学校の職員として勤めさせて頂いています。

上級の会長様より附属高校入学の勧めを頂き、第一期生として入学させて頂いたのです。振り返ってみると、よくここまでお連れ通り頂いたものと改めて感謝させて頂いています。

思えば、当時テレビで青春ドラマが流行っていた頃とあって、夢と憧れをもって入学させて頂いたのです。

ところが今でこそ立派な校舎と寮はあるもの

開校当時は現在の別席場東側駐車場に古い木造の建物(旧女学校と旧西宮詰所)があり、そこが学校兼寮で、グラウンドもなかったのです。幸か不幸か天校の女子寮が隣接していたのです。

寮の生活といえば、毎朝の起床は軍艦マーチ、時々ある午前3時起床の非常訓練、また夕方の規律訓練等々。それは軍隊生活を思わせる、青春ドラマとはほど遠い生活スタイルだったのです。

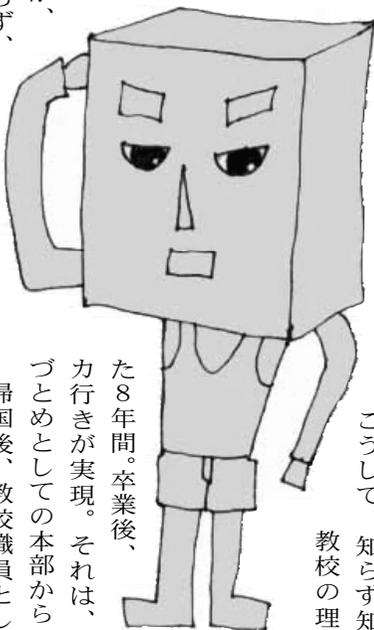
えらいところに来たものだと言った親に不足を言ったものでした。

そして、またまた待ちかまえていたのが、どんなところとも知らず、一期生として入学させて頂いた第二専修科だったのです。

五年間ということもあり、当面一年間は学ばせて頂こうと思っていると、これまたとんでもないところに来たものだと言った親に不足したものでした。

しかし一年と思いい日一日をがむしゃらに言われるままを通過していたことが今更ながら思い出されます。

高校時代の生活に輪を掛けたような厳しい生活、その環境だから通れたと思える京都での布教実修生活。



そんな中、ただ教祖を思い、空腹の中、寒さに震えダンボールにくるまって、夜を明かした野宿布教。そんな時、教会の母からもらった便りから「おまえだけに苦勞の道を通らせているのではない」と朝暗いうちに起きて私のために神殿掃除をしてくれていた母の蔭からの支えがあったからこそ感謝させて頂きます。

こうして、知らず知らずのうちに、おぢば、

教校の理で、親神様の御守護・教

祖の親心そして親のすばらしさを学ばせて頂いていたのです。

こうして夢中に通った8年間。卒業後、当時は夢だったアメリカ行きが実現。それは、伝道庁での半年間の青年づとめとしての本部からの派遣だったのです。

帰国後、教校職員として勤めさせて頂き現在に至っています。これまで5回、半年間の布教実修に学生と共に出席させて頂く等、いつも布教できる学生の育成を目指し、自らもお仕込み頂いて、御用の一端を歩ませて頂いていることを喜ばせて頂いています。

昨年は教校百周年の節目の年を職員として勤めさせて頂くことができ、今後、ここまでお育て頂いた恩返しを真つ直ぐ歩ませて頂き、兄である会長の手足となれるよう、夫婦共々喜び一杯で通らせて頂きます。

修養科生の声

修養科生活も早や一ヶ月

七一九期 小山 武志

修養科への通り道、真柱様の御屋敷から東左四棟にかけて今桜は咲き誇り心を楽しませてくれます。

例えば、新世紀元日、即ち本年一月一日夕方四時、引野分教会の元旦祭を妻と勤め帰宅、昼寝をしていた時、夢の中で明かるい光と共に「天理に行け」との言葉に目を覚まし、早速妻を呼び相談、子供二人の賛成を得て一月十五日より修養、修学をします。

妻の案外の賛成は、昨年暮、早やければ今年中にも薬局をやめ、五、六年位リュックサックを背に海外をバックパッカー(※予定を決めず町から町、国から国へ総て自分の力だけで旅行をする形)をする約束をしましたので、それ程難しい選択ではなかったでしょう。

さて根が単純ですので簡単に仕事を妻に任せて、授業、お手ふり、ひのきしん、に専念しております。今回は、こちらの生活ではなく決断して以後の

次々の御守護の中で特に我家にとりまして有難い御守護を書かしていただき、皆々様にとりましても、日々親神様にもたれて何ら困る事などないと言う事を、僭越ながら体験を通して、お聞き下されば倅わせです。

それは昨夏頃、息子が福山の会社を退職した事に始まります。

語学力を生かせる企画開発の部門で長年の不況で新規事業がなく、仕事が出来ぬ、などと生意気な考え方の基に退職した訳ですが、しかし家の中では

所詮、粗大ゴミ、妻と少々心配してました矢先の

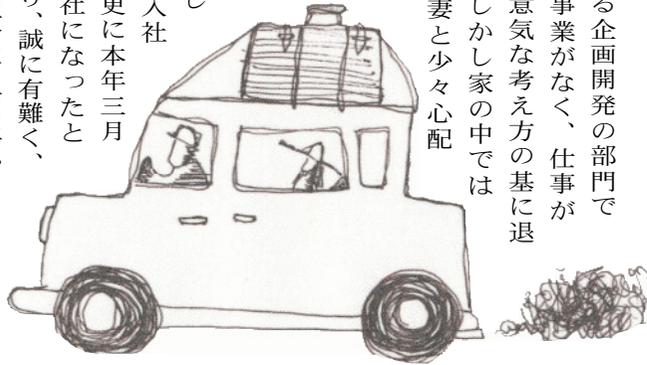
三月始め、息子が町でバツタリ会社の会長さんに出会い、

職を探しての旨話しをしましたら再度入社せよとのお話で、更に本年三月三十日に正式に入社になったと

の報告が妻よりあり、誠に有難く、御守護のお陰と感謝致して居ます。

妻との約束もこれから果たして、更に人生の最終コーナーまでは、神にもたれてのお道を歩む決意です。

妻、子供に感謝すると同時に、先輩諸氏の皆様に御指導よろしくお願い申し上げます。



修養科生活を通して

小川美和

私は花嫁修業の為、修養科に来ました。夫婦・家族について習い、これからの生活に役立てられたいいなあという気持ちでした。

楽しいし、いい事があると聞き「どんないい事があるのだろう」と期待していました。

しかし、始まってみると4:30の起床からひのきしん・修養科・修練で一日が過ぎ、予想外の生活でした。

でも、たくさんひのきしんをすれば、たくさんご褒美をもらえると思い、人の仕事にまで取り組み、ひのきしんをしているつもりでいました。が、何日経っても良い事はなく、逆に疲ればかりを感じるようになりました。

そして、「こんなに働いているのに何も良い事はない。何でこんな事をしてるのだろう。」と不満な気持ちが強まるばかりでした。

そんな気持ちと疲労の為、とうとう25日目の朝、起きられなくなってしまいました。食欲もなく、食べてももどしてしまいう状態でした。いくら休みたいと望んでいたと言っても起きられない状態はとてもしんどくて悲しいものでした。

「なぜ、私がこんな風になるのか。こんなんじゃないんだ。しっかりとひのきしんをしなければ。誰よりもたたくさん。」と思い、「明日こそ!!」と思うのですが、やはり起きられず、三日が過ぎました。

すつきりしないまま三日目の朝、教養掛の岡本先生が声をかけて下さり話を聞いていただきました。

生活・修養科で私の思っている事を話しただけで、今では「何を話したんだろう？」という感じですが、話していくにつれ、体が少しずつ楽になっていくようでした。そして、話し終え、自室へ戻った頃には三日間続いた体のだるさは抜け「昼食の後は少し散歩に出よう。」という気持ちになりました。

この変化を「三日間の休息で疲労回復したのだ。」と考えると、それまでです。が、私はそれだけではないと思います。

なぜなら、その日を期に心が軽く柔らかになつてると感じるからです。以前の心はトゲトゲしく重たいものでした。何にしても人より良くなりたという欲な気持ちが強かったのだろうと思います。

ひのきしんを「自分を助けて欲しい。人より良くして欲しい。」と自分だけの欲でしていた為、守護の代わりに身上でお知らせされたのだろうと思います。

今、疲れは取れ、心は軽くすごしています。朝の4:30起床は相変わらず辛いですが、毎日、朝、起きられる事、体が動く事、食べられる事が嬉しいです。そして、体が動くからできるひのきしんには「だれかの為に。」と思え、自然に取りくめています。

初めは修養科に対して不信感が強くありましたが、一ヶ月過ぎてみると「もう少し居てみようかな。」と天理教や修養科での話を素直に聞けるようになりました。

後、二ヶ月の間には、また悩む事もあると思います。が、周囲の流れに逆らう事なく。楽しく無事終了できればいいなと思います。

教会長おやさど講習会第8次受講者

福 山、陽 備、金 浦、ひろさと、陶 山、
 呉 照、東 悠、照 陽、新山邑、上 下、
 湯田原、川島郷、鴨 方、福 勇、福 芦、
 東福山、行 藤、眞 府、吉 舎、清 嶽、
 上小島、木津和、上吉野、上 備、府 鮮、
 府 庄、府世原。

ふたこと
 みこと

二ヶ月程前のある日、丁度夕づとめの前に玄関に一人の青年が立っていました。応対に出ると「僕はその現場で仕事をしているものです。実は僕も天理教を信仰しているので参拝させてもらいたいのですが」と、思わず「君どこから来たの?」と聞くと「ブラジルです」との返事、ビックリしたまま「まあ、どうぞ、今から夕づとめだから一緒につとめよう」と言う。ハイ“と…：夕づ

とめ後話をし、ブラジル伝道庁の直轄の教会の四男で四年前に来日して、F建設で働いているとの事等々色々聞かしてもらい、遠くブラジルの地で、教友が頑張っている事、本当にうれしくなり、一緒に夕食を食べて行く様すすめて楽しいひと時を過しました。聞くと二週間で他の現場へ移るとの事、「それじゃあ、仕事の後、日参して、夕食を食べて帰ったらいいよ」と言う。と、「ありがとうございます」と毎日参拝してくれました。ところがその週の土曜日の朝、電話が鳴り「Mです、加古川の伯父がトラックに跳ねられて重体です。おさづけを戴いている者の中で僕が一番近いそうなので、すぐ取り次ぎに行かなければならないのですが、先生、どうしましょう」と声を震わせて！大急ぎで福山駅まで送って行きました。それから三日後、M君は帰って来て参拝してくれましたが、神戸大学病院のICUへ入院中で重体との事、今ブラジルから奥さんと子供達が向っているの…：と「それじゃあM君、毎日神様にお願ひに来なさい。私達も添い願ひするから」と話し、四日間日参し、次の現場へと行きました。それ以後、「残念ながら出直しましたが、奥さんは間に合ったので…：」と、元気を出す様、又来てくれる様話して電話を切りました。M君との出会いで、彼の、そしてブラジルの方々の信仰心の深さ、純粹さに触れ、心改まる思いがしました。

さて、十一月に向け、心引き締め実践く、共々に頑張りました。

学生層育成者講習会

日 時 5月21日(月) 正午
 ~午後1時まで

会 場 笠岡大教会

会 内 容 学生層育成の大切さ
 (5月月次祭の神殿講話として)

講 師 中 林 由紀子 先生
 (本部学生担当委員会委員・
 大原大教会長夫人)

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

寒さ厳しかった冬も春分の日を過ぎた今寒さが和らぎ暖かさも感じられ春の訪れを喜ぶ季節となりました この季節は同時に一つの終わりと始まりと出会いの季節でもありそれは春の食べ物の特徴のように苦みを伴うものでありますがその苦みこそ芽生えと成長の証でありますならばこれも大いなる喜びであります そう思う時改めて親神様の子を思う親心と御守護の有り難さを感じずにはおられません 誠に有難うございます 私共はご恩報じを思い念じて日夜御礼を申し上げますと共ににをいがけおたすけつとめとさづけを通してたすけ一条の上に邁進させて頂いております

その中に今日の吉日は三月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同春の陽気心一つに睦み合わせて喜び勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には年度末の慌ただしさを厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む真実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて一月には直轄の大祭参拝を二月三月には部内巡教をさせて頂き今年一年の実践項目の徹底をさせて頂きました 時には雪の日もあり移動もままならない場面もありましたが滞り無くつとめ終えさせて頂くことが出来ましたことを御礼申し上げます この上は笠岡に繋がる全ての人々が心を一手一つに結び合つて実動の上に邁進させて頂く覚悟でございます 加えて来月からの教会長おやさ講習会でのお仕込みを実動の糧とさせて頂き尚一層勇んでつとめさせて頂く所存でございます

何卒親神様には親孝心一筋に実動を通して助け合いの輪を広げて行く皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り世の人々の荒びがちなる心が春の雪解けのように助け合いの心に立て替わりましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

管内学生 新入生歓迎会

日時 5月6日(日) 午前10時
 ~午後3時頃まで

会場 笠岡詰所 及び その周辺

対象 おちば管内の学校に通う学生

内容 親睦会(お天気がよければ
 お弁当を持ってピクニックに)

参加費 無料

☆学生には、直轄、寮内のハガキを出します。

春季霊祭祭文

此の笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の御霊初代真柱様並びに奥様の御霊二代真柱様の御霊中山家ご先祖の御霊大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御霊初代会長上原さと刀自の御霊二代會長上原伊助大人光刀自の御霊三代會長上原繁雄大人くにゑ刀自の御霊四代会長上原郁雄大人の御霊大教会草創の頃より長の年月歴代会長と共にご苦勞下さいました役員部内教会長教人よふぼく信者の御霊諸々の御霊の前に會長上原理一慎んで申し上げます

御霊様方には早くからこのお道に引き寄せられお引き寄せ下さった親神様教祖の思召を悟られると共に無い命助けて頂いた御恩報じを胸に生きの限りたすけ一条の道を歩みきられました 今日笠岡の道の結構な姿をお見せ頂いていますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であることは申すまでもありませんが一つには御霊様方が我が身我が家のいんねんを悟り全てを納消し艱難苦勞の中も心倒すことなく親に凭れきりたすけ一条の真実の伏せ込みをして下さったお陰と朝に夕に御礼申し上げております

その中にも今日の日には春の御霊祭りを執り行う日柄でございますので先程の親神様御前でのをどりに引き続き只今は祖霊殿の儀を執り行わせて頂いております 御前に寄り集いしゆかりある人々が草々の匂の物を供え在りし日の面影を偲び御遺徳を称え改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして御霊様方にもお勇み下さいますようお願い申し上げます 又御霊様方の足跡の万分の一でも辿りたいとの思いから創立百十周年に向け伏せ込みを念頭に三年千日と仕切って歩んできた仕上げの年に相応しくおぢばへの運びそして百万軒にをいがけおさづけの取り次ぎに力を入れてたすけ一条に励ませて頂いている皆の真実をお受け取り下さいまして旬に相応しい心の成人と道のにぎわい又それぞれの子孫のにぎわいを御守護頂けるようお見守りお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

「教会長おやさと講習会」 事務局よりお願い

御本部では、身上者等の便宜を図って、本部宿舎での合宿とは別に、「詰所通い」の制度も設けておられます。この場合、期間中の朝夕の食事は詰所で頂くことになっておりましたが、申し出により本部で喫食することができるようになりました。

大教会事務局といたしましては、御本部や詰所の方に、できるだけ事務的なお手間をおかけしないように取り計らいたいと存じますので、今後は、「詰所通い」を申し出られる方は、原則として、朝夕の食事を本部で喫食して頂くことといたします。

いずれにいたしましても、「詰所通い」・「付き添い」等の願い出、また、万止むを得ず、割り当ての受講次に受講できないような事情が生じた場合は、その旨、速やかに、お申し出でくださいますようお願いいたします。

教会長おやさと講習会 受講の心得

担当者会議における永尾一夫先生のお話し(要約)

◎講習会について

「芯というものある。その者から心分かりてくれ。」「竜頭が狂うたら皆狂う」と、教祖から切なる親心のご期待をお掛け頂く教会長がおやさとに集われての講習会です。

◎講話について

恐らく、お聞きになる話は新しい珍しい話は何一つとしてないと思います。みな、教会長なら百もご承知の話ばかりであろうと思います。

しかしながら、他の信仰ならいざ知らず、この道の信仰に関する限りは、ご存命の教祖にお連れ通り頂いて、ひながたの道を歩んで、ぢばの理をお互いの隅から隅まで流す以外に目的も方法もないわけで、分けても、この時句、「よふぼくの実動」ということを『諭達』に強くお誨り下さいます躍進の動きの中で、今申しました当然のことを、よふぼく一人ひとりの方に徹底させて頂くということは、信仰のない方におさづけを取り次ぎさせて頂く時に、相手に替わって、取り次ぐ者が、心を定めてお継りをさせて頂くように、教会長の方々が、教祖の切なるお心を旨にひながたの実践を心に定めて、ご丹精下さる以外に、道はないのでして、改めて、百も承知の話を、「なるほどそうであったなあ」と素直にお聞き取りを頂いて、そして、何からでも、その中から改めて心に納めて頂くということがあれば有難いと、これが、講話です。

◎練り合いについて

そして、(教会長の方々は、)容易ならん、いわば、布教の難しさの中で、お通り頂いている方々ばかりです。

『教祖伝逸話篇』の中に、増井りん先生のお話があります。雪の日に、河内から山を越えてお帰りになった。その凍えた手を温めて下さり、「よう帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにてもこちらにても滑って、難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ。さあ〜親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しめ、楽しめ、楽しめ。」

こういうお話がありますが、手を引いて連れて帰ったのやなあと仰有る中に、神様に連れて通って頂く私たちの信仰生活がある。また、大切なことは、その中を、「あちらにてもこちらにても難儀やったなあ。その中にて喜んでいたなあ」そして、「十分受け取る、楽しめ楽しめ」と仰有った。

そういう道中をお通りの会長さん方が、たくさんおられるわけですが、その中で、練り合いを通して、お互いに胸を開いて、そして、日々のそういう道中をお互いに、励まし合って、心打ち解け合って、そして、一段と勇まさせて頂く気持ち。そういうことが、練り合いのねらいです。

◎講習会について②

どうぞ、「また、講習会か」「また、同じ話し聞くのか」、滅多なことでそういうことはないと思いますが、しかしながら、この「教会長おやさと講習会」が、本当に、次の塚を目指して、『諭達』で仰せ頂いた真柱様の思いを成し遂げさせて頂く、あのご決意をもって先頭にお立ち下さる真柱様が、初めてお迎えになる、教祖の年祭、本当に喜んで頂けるようにつとめさせて頂きたい、その自力をしっかりとつけさせて頂く講習会であると、こういった思いを、ご受講下さる教会長の皆様方にもお持ち頂きたいと思っております。